

## 第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和2年度 第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

### 1. 日時

令和3年3月10日(水) 13時30分～15時30分

### 2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

### 3. 検討結果

建築用材の需要や移出が順調で、梱包材・パレットも回復する動きが見られる中、原木不足を懸念する意見が出された。そのような状況を踏まえ、「新たな供給調整は必要がない」との結論に至った。このため、「現在、措置されている立木販売物件の搬出期間の延長については、引き続き継続しつつも、素材の委託販売の一部見合わせを解除するとともに、立木販売の例年ベースでの販売を行う。」こととする。

ただし、木材需要の先行きに不透明感が残っていることから、供給量が過剰と判断される場合は、速やかに供給調整を実施する。

### 4. 主な意見等

○民有林の伐採に関しては、大雪や暖気により林道の通行に支障が出ており、造林と運材共に円滑にっていない。

製品受注が回復傾向のため、工場の稼働は通常どおりに戻った。原木在庫は、昨年末と比べ減少している。

製材工場の原木在庫の減少や製品受注の回復状況を考えると、通常の供給に戻しても良いと考える。

○建築向けは動きが悪いが、現在のホワイトウッドの値上がりを踏まえ、道産材に乗り換える動きが増えるのではと考えている。

建材向けトドマツについて、各製材工場では十分ではないものの、原木在庫を持っている。その一方で、必要な径級には不足感がある。

合板関係の需要や移出の回復状況を見ながらの供給を検討して欲しい。

○移出合板材について、今期は前年比97%程度の見通しで順調。

道内の各製材工場での在庫は1～6ヶ月分とバラツキが大きく、扱う製品により工場間の格差が生じているとの印象。

今後も、コンテナが入って来にくい状況が予測。昨年の夏場と比較して、今年3、4月積みのコンテナが値上がりしている。外材から国産材へのシフトを試みている。

○1月の調査速報から、製材出荷は緩やかに回復してきている様子。製材工場からの聞き取りでは、原木在庫が潤沢だという印象はなく、今後の生産回復に伴い原木不足を懸念する声がある。

○紙需要は、例年と比較して毎月減少傾向にあり、今後も右肩下がりの傾向は続くと思われる。

バイオマス発電については、予定どおりの稼働である。他社を含めて原料在庫に不安感はない。

現在、バイオマスに末木枝条を4割強使用しており、今後、5割の使用率を目標にしている。

○輸入材の入荷が絞られ価格が上がる状況下で、トドマツに旺盛な需要が生まれつつある。2、3月に製品の商談が寄せられたが、当社の原木在庫では応じきれないとの心配がある。

今後の需要増加に対して、供給量が追いつかなくなることを危惧していることから、供給量を増加させる方向に舵をきってもらいたい。

○梱包材については、2月上旬から3月に入り注文が増え始めた。取引のない会社からの注文は、吟味して対応している。原木の使用量が、年明けから一気に増え、4月以降もこの傾向が続くと思われる。現在の2.5ヶ月分の在庫では、今後の需要に対して不安がある。

現状として需要は回復しているので、丸太不足が生じないよう、供給調整は元に戻す必要があると考える。